

資料配付場所

1.国土交通記者会 2.国土交通省建設専門紙記者会 3.国土交通省交通運輸記者会 4.筑波研究学園都市記者会 5.環境省記者クラブ 6.文部科学記者会 7.科学記者会 8.農政クラブ 9.農林記者会 10.農業技術クラブ 11.林政記者クラブ 12.水産庁記者クラブ 13.経済産業記者会 14.経済産業省新聞記者会ペンクラブ 15.気象庁記者クラブ 16.神奈川県庁記者クラブ

平成28年10月18日同時配布

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release



平成28年10月18日  
国土技術政策総合研究所

## 環境研究シンポジウムの開催

環境研究に携わる国の施設等機関、国立研究開発法人及び国立大学法人の13研究機関から構成される環境研究機関連絡会は、平成28年11月22日（火）、一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）において、第14回環境研究シンポジウムを開催し、各研究機関における環境研究の成果を広く国民にお知らせします。

今回のシンポジウムでは、『レジリエントな社会・国土を創る環境研究』をテーマとして、13件の講演を行います。また、約100件のポスター発表によって、各研究機関における環境研究の最新の成果をお伝えします。国総研からは「災害に対するリスク評価と対策技術」の講演と衛星リモートセンシングを用いた災害監視など8件のポスター発表をします。

多数の皆様のご来場をお待ち申し上げます。

1. 日 時：平成28年11月22日（火）12:00～18:00

2. 場 所：一橋大学一橋講堂(学術総合センター内)  
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号  
TEL：03-4212-3900

3. プログラム：詳細はP.3～4参照

4. 参加費：無料

5. 参加登録：参加ご希望の方は、下記のウェブページから登録をお願いします。

<https://www.omc.co.jp/kankyokenkyu/>

6. 環境研究機関連絡会とは

今日発生している様々な環境問題を解決するためには、各専門領域にとどまることなく、これらを包含した総合的視点から、各専門分野の研究を推進する必要があります。

また、環境研究に関する多様なニーズに応え、効果的、効率的な研究を推進していくため、新たな情報交換の場を設け、より一層、連携・協力を緊密にしていくことが不可欠となっています。

そこで、環境研究に携わる国の施設等機関、国立研究開発法人及び国立大学法人の研究機関が情報交換し、環境研究の連携を緊密にするため、「環境研究機関連絡会」が平成13年に設置されました。

連絡会では、

- (1) 環境研究の推進状況の紹介と相互理解
- (2) 環境研究の主要成果の紹介
- (3) 環境研究の協力・連携・連絡

などを行っています。

7. 環境研究機関連絡会の参加機関（平成 28 年 10 月現在）

国立研究開発法人防災科学技術研究所  
国立研究開発法人物質・材料研究機構  
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構  
国立研究開発法人森林総合研究所  
国立研究開発法人水産研究・教育機構  
国立研究開発法人産業技術総合研究所  
国土交通省気象庁気象研究所  
国土交通省国土技術政策総合研究所  
国立研究開発法人建築研究所  
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所  
国立研究開発法人土木研究所  
国立研究開発法人国立環境研究所  
国立大学法人筑波大学

8. 取材等：取材は、公開で行います。発表会当日に取材を希望される場合は、「5. 参加登録」のウェブページから登録をお願いします。

お問合せ先：

【本プレスリリースについて】

- ・国土交通省国土技術政策総合研究所 企画部 企画課 担当：馬場  
〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地  
TEL：029-864-2674 FAX：045-227-2704

【シンポジウムの詳細について】

環境研究機関連絡会 事務局

- ・国立研究開発法人森林総合研究所 研究企画科 担当：加賀谷  
〒305-8687 茨城県つくば市松の里1  
TEL：029-829-8114 FAX：029-874-8507

9. 会場周辺地図：学術総合センター（神保町駅から徒歩3分、竹橋駅から徒歩4分）



## 10. プログラム（詳細）

### 【講演会】

- 12 : 45 開会挨拶  
国立研究開発法人森林総合研究所 理事長 沢田 治雄
- 12 : 55 講演 1 極端な気象現象の確率的気候変化予測（20分）  
気象庁気象研究所 気候研究部 主任研究官 水田 亮
- 13 : 15 講演 2 気候変動によるリスクと適応策（20分）  
国立研究開発法人国立環境研究所 社会環境システム研究センター  
地域環境影響評価研究室長 脇岡 靖明
- 13 : 35 講演 3 気候変化に強い農業を目指して（20分）  
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター  
気候変動対応研究領域 温暖化適応策ユニット長 中川 博視
- 13 : 55 講演 4 土砂供給による河床の変化の予測（置土を事例とした予測方法の紹介）（20分）  
国立研究開発法人土木研究所 つくば中央研究所  
水環境研究グループ 自然共生研究センター 主任研究員 宮川 幸雄
- 14 : 15 講演 5 コンクリート内部環境のモニタリング（20分）  
国立研究開発法人物質・材料研究機構 構造材料研究拠点  
耐食鋼グループ グループリーダー 西村 俊弥
- 14 : 35 講演 6 長期地形観測から見る砂浜の未来（20分）  
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所  
沿岸環境研究領域 主任研究官 伴野 雅之
- 14 : 55 講演 7 製鋼スラグと浚渫土を活用したアマモ場創生技術の評価（20分）  
国立研究開発法人産業技術総合研究所 環境管理研究部門  
海洋環境動態評価研究グループ 研究員 塚崎 あゆみ
- （休憩 10分）
- 15 : 25 講演 8 西表島崎山湾・網取湾自然環境保全地域における沿岸海洋生態系と  
物理環境との関係について（20分）  
国立研究開発法人防災科学技術研究所 水・土砂防災研究部門  
副部門長（総括主任研究員） 下川 信也
- 15 : 45 講演 9 震災後の二枚貝養殖業の復興に向けて：安定生産のための漁場利用  
のあり方（20分）  
国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区水産研究所  
沿岸漁業資源研究センター 神山 孝史
- 16 : 05 講演 10 災害に対するリスク評価と対策技術（20分）  
国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官 松尾 和巳
- 16 : 25 講演 11 頻発する土砂災害とどう向き合うか（20分）  
国立大学法人筑波大学 生命環境系 准教授 堀田 紀文
- 16 : 45 講演 12 平成 28 年（2016 年）熊本地震で発生した山地災害（20分）  
国立研究開発法人森林総合研究所 九州支所 山地防災研究グループ長 黒川 潮

17:05 講演 13 住宅・建築物におけるライフライン途絶への対応技術 (20分)  
国立研究開発法人 建築研究所 環境研究グループ長 山海 敏弘

17:25 閉会挨拶  
国立研究開発法人産業技術総合研究所 理事 (エネルギー・環境領域長) 小林 哲彦

【ポスター発表】

○ 展示時間 12:00 ~ 18:00

○ 発表時間 12:00 ~ 12:40、17:35 ~ 18:00

## (参考) 国総研からの発表内容

【講演】

・災害に対するリスク評価と対策技術

河川研究部 水環境研究官 松尾 和巳

【ポスターセッション】

・Cバンドレーダ雨量計の高性能化による XRAIN 雨量観測の高度化

河川研究部 水循環研究室 山地 秀幸

・衛星リモートセンシング技術を用いた大規模土砂災害監視手法

土砂災害研究部 深層崩壊対策研究官 萬徳 昌昭

・インフラ間の相互依存構造を考慮した災害復旧シミュレーション

道路構造研究部 道路地震防災研究室長 片岡 正次郎

・地震時の市街地火災発生時における密集市街地の防火性能評価のための技術開発

都市研究部 都市防災研究室 竹谷 修一

・災害に強い下水道を目指して ~下水道管の耐震化優先度評価の開発~

下水道研究部 下水道研究室 深谷 渉

・みどりを活用した都市の防災・減災対策の推進に関する研究

社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 荒金 恵太

・災害拠点建築物の機能継続技術の開発

建築研究部 建築災害対策研究官 石原 晃彦

・概念モデルを用いた沿岸域における生物生息場の最適配置の検討

沿岸海洋・防災研究部 海洋環境研究室 秋山 吉寛